

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における経済情勢は、国内景気の緩やかな回復の動きがみられたものの、平成26年4月に実施された消費増税の影響が懸念され、先行きにつきましては、依然として不透明な状況で推移しました。

調剤薬局業界におきましては、平成26年4月に調剤報酬改定、薬価改定が行われ、当社にとって厳しい事業環境となりました。一方、当社がこれまで先行投資を行ってきました介護事業の成果が上がってきました。

このような状況の下で、当第1四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高6,544百万円(前年同期比16.7%増)、営業利益369百万円(前年同期比8.6%増)、経常利益347百万円(前年同期比8.0%増)、四半期純利益は238百万円(前年同期比35.3%増)となり、前期に比べ増収増益となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、前期に新規出店およびM&Aにより加わった6店舗の寄与により、売上高は5,367百万円(前年同期比7.3%増)となりました。利益面では、平成26年4月に実施された調剤報酬改定および薬価改定による影響などから営業利益398百万円(前年同期比2.2%減)となりました。

② ヘルスケア事業

ヘルスケア事業におきましては、既存有料老人ホームの入居者が増加したことに加え、平成26年3月に有限会社三重高齢者福祉会(三重県)、同年4月に株式会社ハピネライフケア(鳥取県)の全株式を取得したことにより、売上高は812百万円(前年同期比137.7%増)、営業利益81百万円(前年同期比314.2%増)となりました。

③ 医薬品卸事業

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品使用促進策に沿って市場が拡大する中で、積極的な営業活動を展開した結果、売上高346百万円(前年同期比42.4%増)、営業利益36百万円(前年同期比52.7%増)となりました。(内部売上を含む売上高は471百万円となり、前年同期比で34.4%増加しました。)

④ 不動産事業

不動産事業におきましては、賃貸不動産からの収入によって、売上高18百万円(前年同期比3.6%増)、営業利益12百万円(前年同期比38.6%増)となりました。

また、投資事業におきましては、効率的な運用成績となっております。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。